

農林水産政策研究所だより

Primaff News

VOL.2 平成19年8月28日発行



OECDによる世界の食料需給見通しに関するセミナーを開催しました！



— 旅立ちのあと —

OECDによる世界の食料需給見通しに関する セミナーを開催しました！

「将来を見通すためのOECDにおける政策分析 －農業見通しとバイオ燃料への適用－」

農林水産政策研究所では、6月19日法曹会館において、経済協力開発機構(OECD)の「OECD農業見通し」に関するセミナーを開催しました。

セミナーでは、農業見通し作成責任者であるOECD貿易・農業局農業・食料貿易・市場課長のルーク・ブーネカンブ氏から、お話しいただきました。

1. 2007年農業見通し(アウトルック)による今後の見通し



－ルーク・ブーネカンブ氏－

OECD貿易・農業局では、世界の農産物市場の見通しを行うために開発したAGLINK-COSIMOモデルを使って、毎年世界の農産物市場の中期(10年程度)見通しを行っています。

地球温暖化対策や石油価格上昇等を背景とした各国における農産物のバイオ燃料用需要の増加が、農産物市場に与える影響を中期的に重要な要因として注目しています。

今後10年間高止まり傾向にある世界の農産物価格を過去10年間と比較すると、品目により10～50%の価格上昇が見込まれます。

その要因の一つは、バイオ燃料用という新たな需要が増えたことがあげられます。(消費量に占めるバイオ燃料用の割合は、ブラジル砂糖の60%、米国トウモロコシの30%、EU油糧種子の60%など)。

また、農産物の世界貿易は、肉・乳製品を中心に大きな増加が見込まれます。

2. バイオ燃料に関する中期的見通し

2006年度に穀物の国際価格が上昇した要因は、バイオ燃料用需要の増加よりは、むしろ主要国における天候不順等による生産減少によるものと言えます(図参照)。

また、今後の中期的な穀物価格の傾向を見通す上での課題は、以下の3点があげられます。

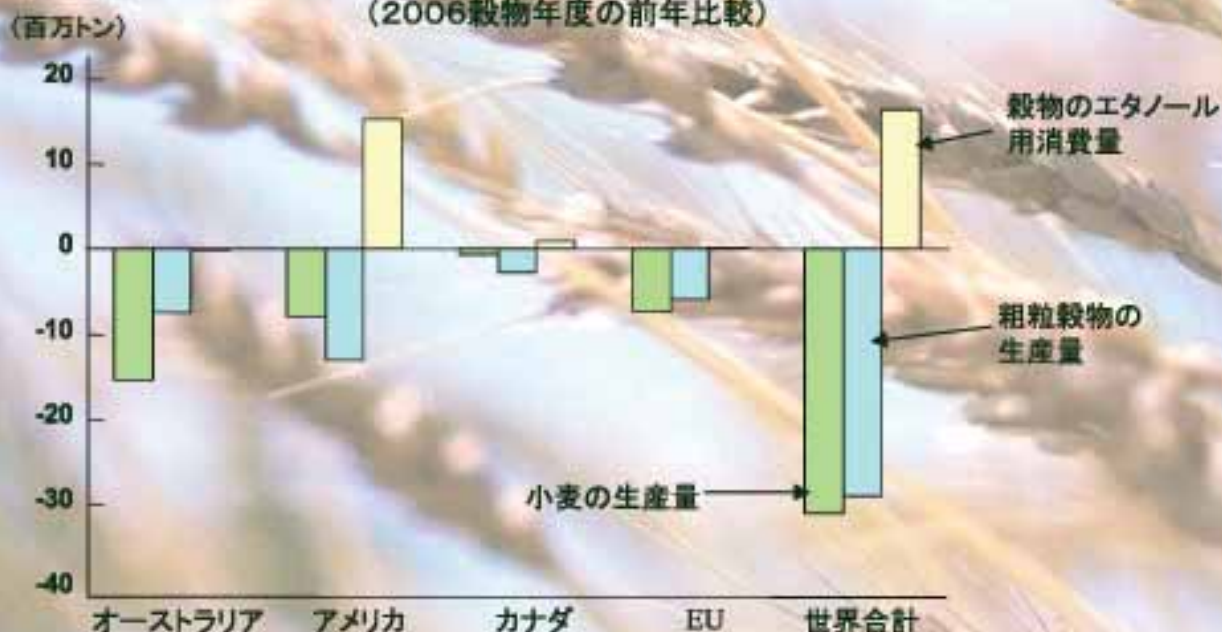
- ・バイオエタノール生産は、政府からの補助金なしでは採算が困難。
- ・今後、バイオエタノールの原料となる穀物の生産増加のため、広大な農地の確保が必要。
- ・穀物価格の上昇に伴う畜産物等の価格上昇が懸念。

最後に、バイオ燃料用消費の増加は、原油価格と各国政府のバイオ燃料に対する助成措置に大きく依存しており、また、地球環境及びエネルギー安全保障に関する利得(ベネフィット)に対して疑問視する声もあがっていることから、今後、分野を超えた幅広い分析や副次的効果の検証が必要となります。



—セミナー会場の様子—

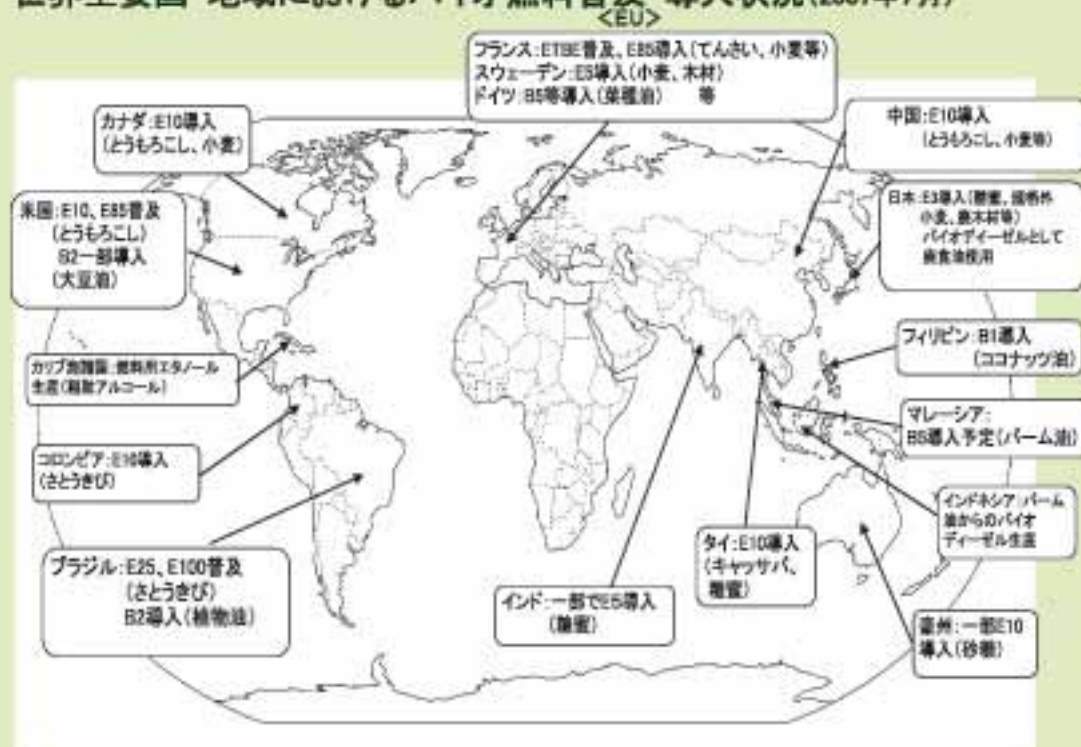
図 世界の穀物生産量とエタノール用消費量
(2006穀物年度の前年比較)



資料: OECD FAO Agricultural Outlook Databaseより

注: 粗粒穀物とは、トウモロコシ、大麦、コーリヤン、ライ麦等である。

<参考> 世界主要国・地域におけるバイオ燃料普及・導入状況(2007年7月)



資料:農林水産政策研究所 小泉達治作成資料より

注:1.Eはバイオエタノール、Bはバイオディーゼルのことであり、その後の数字はバイオ燃料の混合割合(%)を表している。

2. ETBE(エチルターシャリーブチルエーテル)とは、エタノールとイソブテンから合成される燃料である。

3.()は原料名である。



講演会のお知らせ

「農水産廃棄物の再利用と環境の浄化」

厄介者扱いされがちな農水産廃棄物を逆転の発想で有効利用している成功事例をもとに、今後の展望についてお話しいたします。

●講師: 小泉 武夫氏

農林水産政策研究所客員研究員(東京農業大学応用生物科学部教授)

●日時: 10月10日(火) 12:30~14:30(12:00受付開始)

●会場: 農林水産省7階講堂

●問い合わせ先: 農林水産政策研究所霞が関分室

電話03-3502-8111(内線3118)

参加希望の方は、氏名、所属、連絡先(メールアドレス等)をご連絡ください。

編集後記

当研究所の近くでせみの抜け殻を見つけました。よく見ると触角から足の先まで繊細なつくりで芸術作品のようです。ここからせみが無事に羽化して元気に飛び立ったのだということに感動しました。

Primaff News



—農林水産政策研究だより—

VOL.2 平成19年8月28日発行

農林水産省農林水産政策研究所

企画広報室広報資料課

TEL: 03-3910-3809

HP: <http://www.primaff.affrc.go.jp>